



ケニア国より良い生活のための 地方水衛生実施能力強化プロジェクト プロジェクトニュース⑥



給水施設のアップグレード（動力化）事例（2026年7月）

これまで本プロジェクトでは31施設において、ハンドポンプから動力給水施設へのアップグレードや施設更新の協力を行いました（本プロジェクトのアプローチについては、[プロジェクトブリーフノート](#)参照）。また、郡政府職員や給水施設の運営・維持管理（O&M）を担う住民組織（WUA）を対象に、O&Mに関する研修も実施しています（[プロジェクトニュース④](#)）。アップグレードや更新については、給水量の増加、水汲み労働の軽減、WUAの財務状況の改善などの観点から、そのアプローチの有効性を確認しています。

今回、アップグレードの一例としてマクエニ郡のM施設を紹介します。M施設では、2012年にハンドポンプが整備されました。設置後はWUAが維持管理を担っていましたが、ハンドポンプが故障した際に、その修理費用をWUAは確保できず、長期間にわたり施設は不稼働となっていました。本プロジェクトは、同施設を2025年7月に動力給水施設へアップグレード（写真1）、そして、新たなWUAの設立に協力し、施設のO&M体制を再構築しました。現在は新WUAが中心となって施設のO&Mを行い、地域住民への安定した給水サービスの提供を行っています。



写真1. ハンドポンプを動力給水施設にアップグレード。給水ポイントである公共水栓（写真右）を設置

本施設の2025年8月以降の運営状況を図1に示します。雨季（11月、2月下旬）には給水量の減少がみられますが、ほぼ毎月収支は黒字で利益を確保でき、そのため将来の施設故障に必要となる修理費も貯蓄できるなど、施設は良好に運営されています。また、本施設はこれまで水アクセスがなかった近隣の小学校への給水も可能にし、生徒の栄養改善を目的として、学校給食で使用する野菜を栽培する学校農園の取組も開始されました（写真2）。既存給水施設のアップグレードや更新は、水汲み労働の軽減、水料金の支払い意思の向上、WUAの収入増加に加え、学校における水衛生環境の改善（[プロジェクトニュース⑤](#)）など、多面的な効果をもたらしています。本プロジェクトでは、こうした成果を踏まえ、既存施設の有効活用を通じた持続可能な地方給水サービスの拡大を推進しています。

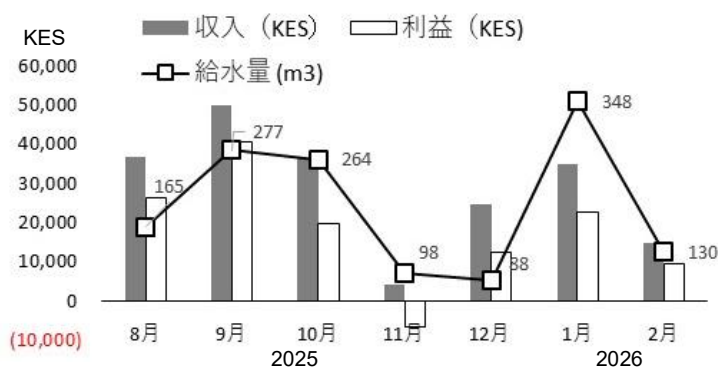


図1. アップグレード後の収支と給水量



写真2. 本プロジェクトが協力した給水施設の水を活用した学校農園